

公開授業研究会参会者から頂いた御意見・御感想

本研究委員会では、授業実践のうち、小学校で4校、中学校で4校での授業実践を県内の先生方に公開し、授業研究会を行いました。延べ63名の先生方に御参加いただきました。

公開授業研究会では、以下の3点を柱として協議しました。

- ・ 教師の問い掛けは適切で、児童生徒の思考(疑問や葛藤など)を促していたか。
- ・ 誰にとって何が問題で、どのような問題なのかが板書やワークシートに表されていたか。
- ・ その他「意思決定を取り入れた討論型の学習」についてどのように感じたか。

公開授業研究会で頂いた御意見や御感想を(1)評価してもらったこと、(2)教材研究の視点になること、(3)課題となることの3つに分けて紹介します。

(1) 評価してもらったこと

- ・ 児童生徒が、社会的事象に対して自分の考えをもつことができるよい学習方法である。
- ・ 児童生徒にとって自分で考える必然性があるので、学習への意欲につながっている。
- ・ 児童生徒が、社会的な事象に対しての考えを深めたり、広げたりする学習となっている。
- ・ ワークシート等で学習を振り返ることができ、児童生徒自身が考えの深まり広がりを実感することができる。
- ・ 教師が、児童生徒の思考の流れ、1単位時間ごとの評価を行うことができる。
- ・ 教師が、評価について児童生徒と判定基準を共有することで、パフォーマンス評価をすることができる。
- ・ 児童生徒が学んだ知識を活用して、考えることができるよい学習方法である。
- ・ 児童生徒の社会的事象への興味・関心を高めることができる。
- ・ 自分で判断する(意思決定する)経験を積むよいトレーニングになる。
- ・ 児童生徒が意思決定する考え方、判断の仕方、表し方を学ぶよい機会になる。
- ・ 児童生徒にとって、個人の考えが全てに通る訳ではないことが理解できるよい機会になる。
- ・ 学習内容の理解が深まる。
- ・ 児童生徒が真剣に考えるようになる。
- ・ 児童生徒ともに学習問題をつくることで、児童生徒の学習意欲を高めることができる。
- ・ 比較させるワークシートや板書は、児童生徒の思考を整理するよい方法である。

(2) 教材研究の視点になること

- ・ なぜ、その社会的な問題を取り上げ、判断を迫らねばならないのかをしっかりとっておく必要がある。その上で、どんな視点で考えさせ、どんな資料、データを使って、どのように決めさせるのか具体的に教材研究をする必要がある。
- ・ 手順を追うだけでなく、児童生徒が調べる時間、考える時間を十分確保するように計画を立てなければならない。
- ・ 児童生徒に対して、なぜ、どうして、何をもってそう言うのかなど、意思決定の根拠になるところを大切にさせ、議論させるようにする。
- ・ 論題の内容やワークシートでの表現方法については、児童生徒の実態に基づき、シンプルで簡単な問いから始めるべきである。1つの単元において、多くを求めないようにする。
- ・ 児童生徒の葛藤を生み出す揺さ振りの問い掛け(発問)が大切になってくる。児童生徒の実態に基づき、発問計画をしっかりとっておく必要がある。

(3) 課題となること

- ・ 教材研究が大切になるので、時間を確保することが難しい。
- ・ 1つの単元に割り当てる授業時数が増えることが考えられる。年間計画を見直し、計画的に取り組む必要がある。
- ・ プチ討論など授業時数内で取り組むことができる方法を模索する必要がある。
- ・ グラフや資料(史料)から必要な情報を読み取るスキルを身に付けさせる時間が必要になる。
- ・ 日頃から児童生徒の考えを揺さ振る発問を行い、学習方法に慣れさせる必要がある。